

令和5年度 奈良県立五條高等学校 学校評価計画表 (年度末)	
【高等学校用】	
年度	令和5年度 (中期計画2年目)
本校の使命 (スクール・ミッション)	校訓である「質実」「剛健」「礼節」を身に付けた、地域・社会に貢献する自立した人材の育成
年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の充実・伸長を図る。一探究活動の積極的な導入、家庭学習の充実、計画的な学習、補充講座の充実、言語活動の充実、授業研究の推進、学び意欲と想像力を高める教育的実践 等 規範意識等の向上を目指す。一欠席・遅刻を減らす取組、挨拶・マナーの向上、服装・服装・言動・規範意識などの点検 等 総合的な探究の時間を充実させ、主体的な課題解決能力と自己学習能力を育成。一公開講座・出張授業の実施、近隣の学校・園との連携、外部人材の活用 等 部活動等の活性化を推進し、自信と誇りをもって活気ある学校を作り、良き校風を醸成する。一「まぼろしの森」の教育内容の充実、進学に向けた基礎学力の充実、大学等との連携によるキャリア教育の充実、情報機器等の活用に関する研究 等 温むのあるコミュニケーションを通して、家庭と連携を密に取組、きめ細やかな指導に努める。一教育相談や特別支援が必要な生徒・不登校生徒等への指導体制の充実、支え合う仲間作り 等 多様性を尊重し、共に生きていくための意思と実践力を育成する。一オンライン学習教育の推進、学校行事等での配慮、生活のあらゆる場面での話し合い 等 コミュニケーションの取組を推進するため、地域とさらに関わり、地域と共にある学校づくりを活性化させるとともに、積極的に広報活動を行う。一公開講座・出張授業の実施、近隣学校・園との連携、外部人材の活用、HPや報道資料の積極的な更新や発信 等

1 スクール・ポリシーの内容	
入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解している生徒 2 より発展的な学びを目指し、様々な学びに積極的に取り組む意欲のある生徒 3 資格取得に向けて意欲的に取り組む生徒 4 主体的に考えて行動でき、地域貢献への意欲のある生徒
教育課程の編成及び実施に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、「確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身 (知・徳・体) を備えた生徒」の育成を中核に据え、「夢や希望の実現に向け、様々な課題に積極的に挑戦する生徒」「自他を尊び、地域・社会に貢献する自立した生徒」の育成を目指す。その実現のために以下の教育を行います。 1 生徒一人一人の自己実現に繋がるよう、基礎学力の定着に重視しながら興味・関心に応じた科目選択ができるがキレムを編成します。 2 学科やコース、類型の枠を越えて、思考力・判断力・表現力の育成を重視した学校設定科目を開発し、主体的、探究的に学び取れる力を培います。 3 教育活動全般を通じて、温むのあるコミュニケーション能力を育成します。 4 コミュニティ・スクールの趣旨を踏まえ、地域の小・中学校等との連携やボランティア活動などを積極的に回り、地域や社会に貢献する精神を醸成します。 5 海外姉妹校との連携等により、自己理解と異文化理解等を充実させ、グローバルな視点で物事を判断する力を育成します。 6 生徒一人一人の興味・関心に応じた講座を開講し、資格取得などを目指す「本人のための教育」を推進します。
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 豊かな人間性を基盤に、社会に貢献しようとする力がある。 2 自己変換の精神とともに、自らの地域の歴史や文化に対する強い誇りと愛着をもっている。 3 コミュニケーション力を大切にし、仲間と協働しながら主体的に課題を解決できる。 4 卒業後も文武両道に努め、自ら学び続けることができる。

2 奈良県教育振興基本計画 (「奈良の学び推進プラン」) が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標 (A)	計画期間における具体的目標 (B)	令和5年度末の目標値等 (C)	令和5年度末の状況	自己評価 (E)	学校関係者評価 (F)	改善策
1. こころと身体を子どもの成長に合わせはくむ	望ましい生活習慣の確立	出席率98.5%以上。	本年度の出席率97.5%以上	1月末までの年間出席率が95.5%で、昨年度よりさらに低下した。	様々な要因から不登校生徒が増加。全体の出席率が低下した。新型コロナウイルス感染症が5月から5期となり、出席停止ではなかったが、予防的な欠席も一定数見られた。オンライン授業が、安易な欠席を助長している面もある。	オンライン授業は、登校できない場合の学力保障では有効な技術なので、どういった場合に実施するかについて検討も追加、効果的な活用にも努めている。	心配な生徒については、引き続き家庭と連絡を密にやり、きめ細やかな指導を行うこと、望ましい生活習慣の確立を目指す。本校には毎週スクールカウンセラーが来校するので、特別支援的な見地から外部の方々からアドバイスを受け、保護者と共に出席が滞らない生徒の指導に取り組む。また、学校行事等を活性化し、生徒が自ら行きたいと思える雰囲気や環境の醸成に一層努める。
	人権及び命に関する取組を深め、自他を大切に学習の推進	人権や命にかかわる学習を各学年で年間9時間以上。人権問題について考える機会が多いを95%以上。	人権や命にかかわる学習を各学年で年間8時間以上。人権問題について考える機会が多いを前年並み(94.5%)に。	1年9時間、2年8時間、3年6時間の計画どおり実施できた。「人権問題について考える機会が多いは、今年度の目標を達成できたものの、昨年度の94.1%から今年度93.5%と微減した。	「人権問題について考える機会」の指標は2年連続の微減となった。人権 (生徒) の活動も活性化しており、アンケートの調査の範囲内だと考えられ、割合を上げ取組を進めた。	人権尊重はすべての教育活動の根底にあるので、今後ともホールームを中心に幅広い分野で考える機会を増やせることを目指し、保護者にも発信が及ぶよう工夫していきたい。	目標は微減達成できているが、より本校の実態やニーズに応じた人権教育の取組を考えた上で、啓発文書も豊富なテーマで送付しているが、保護者からのフィードバックは減少している。メールマガジンとしての付随、フォームでの感想募集等も考えていきたい。
	望ましい食習慣の確立	朝食摂取率80%以上。	朝食摂取率の学校独自調査の実施 啓発活動を各学期1回以上 朝食摂取率を今年度70%以上に	今年度の朝食摂取率は64%と昨年度の69%が低下した。啓発活動は生徒によるポスターの作成など昨年以上に実施できたが、学校独自調査が実施できなかったため、啓発の成果は検証できていない。	出席率の低下を察知して、出席確認等の生徒の動きをつかむことと注力した結果、食育にまで手が回らなかった面はある。出席率向上とリンクする事業があるため、さらなる啓発に努める。	食べる機会の確保も重要だが、食べている物の内容・量等も気になる。なぜ食べないのかについてより詳しく、より効果的なアプローチを求めたい。	ホールーム以外でも「保健」「家庭基礎」の授業と連携し、社会人になるための進路指導とも絡めて啓発し続ける。継続した活動は保護者への啓発も行う。次年度は必ず学校独自のアンケート項目として盛り込む。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	生徒の授業満足度の平均80%以上。	生徒の授業満足度の平均78%以上。	7月実施生徒アンケート結果76.9%で経年比較では前年度より0.5ポイント上昇したが目標を高くした分、今年度の目標を達成できなかった。	本校は生徒の進路目標、学力差が大きいためターゲットとする層を絞り込むのが難しい。身に付けた力を明確化し、さらなる授業改善に取り組む。	進路協定を結んだことで教員の研修にも取り組めるようになった。小学校から高校までを見越した活動ができるよう工夫。	令和6年度は全学年がBYODによる端末及び電子黒板を利用した授業が実施可能となる。各種メディア使用を通じた授業改善に引き続き取り組む。
	学習習慣の確立	毎日家庭学習を行う者の割合を80%以上。	毎日家庭学習を行う者の割合を70%以上。	(生徒アンケート) 平日に学習している生徒の割合 7月66.2% → 12月58.7% (経年比較 前年度12月より4ポイント減) (生徒アンケート) 休日に学習している生徒の割合 7月64.94% → 12月54.3% (経年比較 前年度12月より8ポイント減)	出席率の後半にかけて、毎日学習する生徒の割合が増える傾向は変わらない。今年度も目標70%には届かず及ばない結果となりました。さらに平日・休日を問わず長時間 (2時間以上) 家庭学習している生徒も今年度は微減した。大学入試等において、一般入試での受験生減少と連動していると考えている。	年内に新着の生徒の進路が決まると聞いて、学習習慣の定着を図る。これまでの中間考査、期末考査の直前だけ頑張っておけば良いという状況ではないので、単元テスト等の効果的な実施について工夫する。次年度の1年生より限目まで取り、希望進路に応じた少人数講習等を行う。本校独自で作成している「私の夢プラン」(学習計画ノート)の積極的な活用を進める。	各クラスのClassroomでの呼びかけや、小テスト、単元テスト対策等を通じて、学習習慣の定着を図る。これまでの中間考査、期末考査の直前だけ頑張っておけば良いという状況ではないので、単元テスト等の効果的な実施について工夫する。次年度の1年生より限目まで取り、希望進路に応じた少人数講習等を行う。本校独自で作成している「私の夢プラン」(学習計画ノート)の積極的な活用を進める。
	ICTを活用した授業の推進	ICT機器の利用を全授業の85%以上。	ICT機器の利用を全授業の80%以上	2学期末に「ICTを活用した授業を実施した」教員にたずねたところ95.5%が活用していた。	教育研究所の高校教育情報化からの視察でも、本校のICT化率及びその活用方法は県下でも先進的であるのコメントをいただいた。今後ともこの形で授業改善を進める。	次年度からは電子黒板が全学年で整備されること、引き続き、わかりやすく楽しく学べる環境を整えてもらいたい。	今年度も高いレベルで目標が達成できていると考えるが、さらにわかりやすい授業展開を考える。今後はアクティブラーニング等の整備あり、「総合的な探究の時間」等で、生徒の自主的な学びにICT機器を活用できるように更に研修を進める。
学校における働き方改革の推進	全職員の平均残業時間を令和3年度の職員一人月あたり21.23時間から15%減の18時間以下とする。	全職員の平均残業時間を令和3年度の職員一人月あたり21.23時間から10%減の19時間以下とする。	本年度の4月～1月期の職員一人月あたり残業時間が、24.56時間となり、達成できなかった。	本年度の4月～1月期の職員一人月あたり残業時間が、24.56時間となり、達成できなかった。	民間企業でも、働き方改革を促す。若手補助員の学校行事等の再開で、想定以上に時間をとられていた。	勤務時間の調整等を活用し、平日の部活動や放課下指導などで時間外勤務している分は工夫してもらっているが、まだまだ長時間勤務は解消できていない。根本的な働き方改革、業務のあり方の再検討が必要である。	
交通安全教育の推進	単車及び自転車による通学者の交通事故を年間0 (ゼロ) 件。	単車及び自転車による通学者の交通事故を前年度以下に	事故件数が昨年度3件、今年度も3件で目標は達成できなかった。	交通安全に関する集会や実践授業を行い、例年以上に取り組んだ。一層の注意喚起に努める。	十分に取組んでもらっていると思うが、引き続き交通安全に努めてもらいたい。	今年度事故に遭った生徒はいずれも通学路上であり、関係各機関と連携を取りながら引き続き交通安全の啓発を進める。	
3. 働く意欲と働く力をはくむ	インターンシップの充実	インターンシップ (就職希望者)、アカデミック・インターンシップ (進学希望者) への参加率80%。	インターンシップ (1・2年生の就職希望者対象)、アカデミック・インターンシップ (1・2年生の進学希望者) への参加率50%以上とする。	1月末現在で、就職希望者のインターンシップ参加率は22.2%、アカデミック・インターンシップ参加率は18.5%である。現在春学期休業中のインターンシップについて募集中である。	就職・進学と見出しは別項である。一方で、体験を伴わない進学相談会を実施しているため、インターンシップと学校内での説明を混同している可能性もある。引き続き、有用性をアピールする。	有用な取組だと思うので、参加率向上に向けて工夫してほしい。	昨年度の四天王寺大学に引き続き、3月に天理大学とも連携協定を結ぶ予定である。働き方や入りやすさによる進路指導ではなく、あくまでも学び・体験を通して将来を見据えられる生徒の育成に努める。
地元産業等との連携	「出前講座」「職業ガイダンス」等を年間7回以上。	「出前講座」「職業ガイダンス」等を年間5回以上。	校内でのガイダンス等進学希望者向け、就職希望者向けを合わせて年間6回開催できた。	回数的には達成でき、情報は数多く提供できていると考えが、放課後の希望者へのガイダンスは参加者が減少した。	情報過多の時代において、生徒の得る情報の入手先が開かれている。学校を介する情報提供で、誤った情報が広まらないような取組は必要である。	進路情報会を利用しながらスムーズな運営ができていて、情報提供にとどまり、生徒のやる気を引き出すような取組はできていない。得た情報を元に進路実現に向けた努力がよいかということに集約されるよう家庭も巻き込んだ取組を行なわれなければならない。	
キャリア教育の推進	「私の夢プラン」による自己点検を教員が確認し、アドバイスする (毎週) 「進路カルテ」「ポートフォリオ」 (旧課程) 「キャリア」 (新課程) による到達度チェック等を毎学期1回以上。	「私の夢プラン」による自己点検を教員が確認 (月2回程度) 「進路カルテ」「ポートフォリオ」「キャリア」による到達度チェック等を毎学期1回以上行う。	「私の夢プラン」を用い、毎週月曜日に計画を立て、教員が点検しているがクラスによりやめたい差のあるのが実状である。「進路カルテ」「ポートフォリオ」 (1・2年生はキャリアポート) のチェックを行っている。	「私の夢プラン」を利用し、スクジュール管理を行っているが、生徒個人のレベルでは目標の未達成が多い。「進路カルテ」「ポートフォリオ」「キャリア」を毎学期記入させたが、作業にとどまっていた。キャリアアップに向けた意図付けの工夫が必要である。	「私の夢プラン」を利用し、スクジュール管理を行っているが、生徒個人のレベルでは目標の未達成が多い。「進路カルテ」「ポートフォリオ」「キャリア」を毎学期記入させたが、作業にとどまっていた。キャリアアップに向けた意図付けの工夫が必要である。	学習の習慣化の意図においても、計画を立てることは大切である。引き続きこうした取組を活用して学力向上を目指すしてほしい。	次年度は、全ての学年でBYOD端末を一人一台持つようになるので、情報機器を用いたスクジュール管理を検討したい。今年度末には、スタイルホールの席数も増え、ネットワーク環境を整えるので、まずは放課後の自習等を「私の夢プラン」に落とし込む等、できることからやり達成感を自覚させながら取り組ませたい。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールとしての地域貢献	地域の各小・中学校との連携各校3回 (共同開催含む) 以上。	地域の小・中学校との連携各校3回。	小学校 (スポーツテストに向けて/運動会補助員派遣/コトノハプロジェクト) 中学校 (商業科見学会/オープンキャンパス/スポーツカルチャー講座/運動会後援) 高等学校 (小学生の中学校訪問に参加) その他他所属訪問2回	新型コロナウイルス感染症の影響の残る中、市内小・中学校のニーズをくみ取りながら、多くの事業を実施できた。地元との連携協定も締結したことで、さらなる取組を推進したい。	五條中学校での小学生を招いての体験に高校生が参加してくれたのは大変刺激になった。各分野での五條高校の活動を盛り込み、市内の小・中学校が活用できれば素晴らしいと考えたい。	コロナ禍でいったん停滞してしまった活動において、以前に復することの難しさを実感した。地元との連携協定を活かす。これまでの生徒を通しての交流のみならず、教員の交流等も改めて活性化を図る。
郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」における現地研修等を2回以上。	現地研修等をまぼろしの森コースに限らず1回以上行う。	2学期に1年生全クラスで吉野川現場研修。2年生の夏期休業中の課題で五條市を題材にしたCM作成を課し、地元のことを研究させた。	五條文化博物館での研修や研修生を輩出した市内の歴史民俗資料館での研修等、身近な施設・郷土の有用活動をさらに検討してほしい。	五條市でも認知されていないと感じるので、発信についても意識してほしい。	学校運営協議会や進路指導部のインターンシップ等とも連携して、地域の魅力を伝える機会を一層設けることにより学校から発信していくことも検討する。	
グローバルマインドの育成	姉妹校とのオンラインによる交流を年間3回以上 (コロナ禍が終息すれば短期留学等も再開)。	姉妹校とのオンラインによる交流を年間3回以上	1月に姉妹校からの研修生徒を受け入れ、3月には本校からの研修生を派遣する。対面交流を再開できた。	大幅な円安下での4年ぶりの派遣で、費用面等で工夫が必要であったが何らかの対面交流が再開できた。	外国との交流は大変貴重な体験になると考える。難しい面もあると思うが、引き続き取組を進めたい。	研修生受け入れでは、五條のことを伝える中で地元のことを学習する機会にもなった。受け入れた2年生は字の雰囲気も明るくなるなど、姉妹校との交流が生徒たちの刺激につながった。一方、ホストファミリーの募集等では苦労があった。募集人数を増やすにはより積極的な取組が必要である。	
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	学校いじめ防止方針に基づく取組を推進し、年間いじめ発生件数を全校生徒数の1%未満とする。	年間いじめ発生件数を前年度未満とする (令和4年度2件)。	いじめ発生件数は7件と昨年度を大幅に上回っていました。	件数の増加は、複数回にわたるアンケート等を精制的に点検し取り上げられた結果であると捉えている。	より詳しく調査をかければ、件数は増える。重大な事案はないようなので、継続的な監視をお願したい。	昨年も指摘したが、発信することで研修の効果が生まれると思う。五條高校の取組が市内でも認知されていないと感じるので、発信についても意識してほしい。
特別支援教育を推進し、個別最適な教育支援態勢を構築する。	生徒の実態把握を行い、支援や配慮が必要な生徒についての対応を立案する。 ・教育的ニーズに応じた基礎的環境を整備を行う。 ・教員全体で、個々の生徒についての情報共有と、合理的配慮の提供を行う。	対象となる生徒の状況を学期毎に確認し、個別の支援計画・指導方針を作成する。	個別の支援計画を20名について作成し、継続的に観察、指導中である。	支援を必要とする生徒12名について、2学期に4回のケース会議をもって支援の方策を協議した。1学期に1回、2学期に1回学年主任会 (校長・教頭・3人の学年主任による) をもち要配慮生徒等の情報を共有した。	今後とも個別に支援が必要な生徒等は増加すると考えられる。支援・見守り等は重要だが、こうした生徒たちが来て良かった。学校行事等での配慮をもち要配慮生徒等の情報を共有した。	家庭環境が複雑で学校だけでは、市町村の特別支援等との連携も行っていない。ケース会議をもち個別支援計画を整えていく。	

3 評価結果の分析、今後の改善策等
今年度12月に実施した保護者アンケートでは「子どもを五條高校に入学会よかったと思う」の割合が、「そう思う」(53.9%)、「どちらかといえばそう思う」(38.5%)の割合が92.4%であり、前年度の計94.7%と比較すると、全体としては微減となった。同アンケートについては、昨年度は全保護者の46%程度の回答が少なく、回収率向上に努めた結果今年度は76%からの回答を得ることができた。今でも御意見をいただくことができなかった保護者からも意思表示があったことを前向きに捉え、学校運営の改善に引き続き取り組む。